

### 横須賀のサクラ

野生のサクラ(バラ科サクラ属)は東アジアを中心に100種近く知られ、日本には約10種、横須賀市内の山林にはヤマザクラと「市の木」であるオオシマザクラの2種が自生しています。市内の公園では、これら2種のほか栽培品種のソメイヨシノやカワツザクラなどもよく見られます。

ソメイヨシノはオオシマザクラとエドヒガンとの交雑に由来することが知られていますが、サクラのなかまは交雑が起こりやすいようです。身近なサクラをよく見てみると、様々な交雑によって生まれた多様なサクラの姿が観察できるかもしれません。



エドヒガン



オオシマザクラ



ヤマザクラ

県内での自生は小仏山地と東丹沢のみだが、市内の公園などに植栽されている。葉より先に薄紅色の花が咲く。

伊豆諸島原産。市内では新炭用に植林されたものが野生化した。花と葉はほぼ同時にひらく。葉は赤みを帯びる。オオシマザクラと自然交雑したと考えられる個体も存在する。花は白色で大型。香りが強い。



早春のキタテハ

### 啓蟄と虫たちの越冬明け

季節の表しかたに「二十四節気」があります。その一つ「啓蟄」は、越冬していた虫が姿を現すとされる日で、3月6日頃にあたります。

昆虫の越冬は、卵、幼虫、蛹、成虫のいずれかの段階で活動を一時的に休止することで起こります。種やグループによって越冬する成長段階が異なります。例えば、キタテハやルリタテハなど成虫で越冬するチョウは、冬の暖かな日にしばしば休止を解き、周辺を飛び回ることがあります。このように、啓蟄には成虫で越冬する昆虫たちの活動が観察できるかもしれません。

一方で、スズメバチ類では、秋に誕生した新女王バチが朽ち木などで越冬しますが、越冬明けは啓蟄より遅く4月中旬以降です。これは、幼虫の餌となる他の昆虫が活動を始めた後を狙うためです。

キイロスズメバチの越冬

### 冬

### 落葉後の楽しみ「葉痕」さがし

温暖な気候の三浦半島には常緑の照葉樹がよく見られるものの、冬の野山や公園では様々な植物が落葉している様子を目にします。植物が冬を越すための戦略のひとつが落葉です。寒くなると葉のつけねに離層(りそう)ができて葉を落とします。これにより乾燥などから身を守ります。

枝に残る葉のあとを葉痕(ようこん)といい、斑点のような維管束痕(いかんそくこん:水分や養分が通る管のあと)が人や動物の顔に見えることもあります。ユニークな葉痕を探すことも冬の植物観察の楽しみです。



左からガクアジサイ、オニグルミ、トベラの葉痕。常緑樹も葉痕は観察できます。

## よこすか 身近な自然 【いきもの暦】

### よこすかの自然スポット



※スポット以外の公園等は[緑色]で掲載しています。

### 海辺の自然スポット

- 1 猿島
- 2 走水海岸
- 3 県立観音崎公園
- 4 燈明堂周辺
- 5 野比海岸～北下浦海岸
- 6 長浜海岸
- 7 荒崎公園
- 8 富浦公園
- 9 斉田浜
- 10 天神島・笠島
- 11 立石公園



### 山・川・谷戸・里山の自然スポット

- a 鷹取山
- b 西逸見ほたるの里
- c 平作川上流(阿部倉・湯ノ沢)
- d 光の丘水辺公園
- e かがみ田緑地
- f 武山
- g 沢山池の里山(長坂緑地)
- h 湘南国際村めぐりの森
- i 大楠山
- j 芦名堰
- k 前田川



【写真提供・編集協力】横須賀市自然・人文博物館

横須賀市 建設部 自然環境共生課  
〒238-8550 横須賀市小川町11番地  
TEL 046-822-8331 FAX 046-821-1523

見られる生きものや場所の詳細はHPで確認できます!

横須賀 身近な自然 いきもの暦 検索

### クサフグの産卵

クサフグは体長10cm前後の小型のフグで、横須賀の海で最も普通にみられます。5～6月の大潮の日の夕方、群れをつくって海岸の浅瀬に体を持ち上げ、寄せる波の中に産卵します。産卵場所は毎年行われる場所もありますが、底質の砂や淡水の流入などの環境条件により、毎年変わることもあります。産まれた卵は砂の中や岩などの海底に着いて発生し、1週間ほどで孵化します。



産卵中のクサフグの群れ

クサフグ

### ホタルのこよみ

横須賀市では、よく光るホタルとしてゲンジボタルとヘイケボタルを観察することができ、いずれも主な観察シーズンは6月です。ゲンジボタルは約1か月のあいだ観察でき、市内で早い場所だと5月中旬から観察できることもあります。ヘイケボタルはゲンジボタルに遅れて観察できるようになりますが、観察できる期間はゲンジボタルより長く、8月に入っても観察されることもあるようです。

西逸見ホタルの里では、地域の方々が長い間ゲンジボタルの生息環境保全と観察を行っています。2021年までの約20年分のゲンジボタル調査データによると、年によって発生開始時期が前後し、観察個体数が集中する(ピーク)期間も1～2週間とバラつきました。一方、このデータからは温暖化によって発生時期が早まるといった傾向は読み取れず、年ごとに変化のある温度環境(幼虫時代の水温や蛹時代の地温)の差異の影響を受けていると考えられます。

### 夏



ゲンジボタル

発光(光は大きく、ゆっくり)



ヘイケボタル

発光(光は小さく、はやい)

### 秋

### タカの渡り

タカのなかまのサンバやハチクマなどは、夏に九州以北の山地や里山で繁殖し、冬は琉球列島以南の熱帯・亜熱帯地域に移動して越冬します。繁殖を終えた9月中旬～10月上旬頃、タカたちが集団で海岸線の上空を西に向かって飛んでいきます。これを「タカの渡り」と呼び、朝、気温の上昇とともに発生する上昇気流に乗って、多い時には1日100羽以上のタカが飛翔し、通過していく姿が観察されます。



羽を休めるサンバ

サンバの飛翔

